



はじめに

【1】はじめに.....

◆ 必然性へのアプローチ

囲碁のゲーム理論として重要な研究テーマに「着手の必然性」があります。必然性には「部分的な必然性」と「全局的な必然性」との2つからの視点がありますが、「全局的な必然性」の方がより優先される傾向にあります。このような必然性が「どのような原因から生まれ、また関連しているのか」という研究解明が、この本の基本テーマになっています。

◆ 必然性が生み出す「可能性の減少」

ゲーム理論から着手を考察する場合、手順進行によって起こる「地として囲える空間の広さの減少」が、大きな影響を与えています。つまり空間の減少が「生きる可能性の減少」を引き起こし、それが「全局的な必然性」を生み出す大きな要因になるためです。この結果、基本戦略として碁盤中央の石は「効率よく地を囲って生きる」ことが困難になることから、「相手の石を攻めながら、地を囲って生きる」という必然性を利用した戦略が生まれることとなります。

◆ 一手の価値の計算

生きることの困難さは、一手の価値にも影響を与え、「生きる」という間接的価値と「地を囲う」という直接的価値の2つの価値の組み合わせで表現できます。(新説)

その計算式は

$$\text{一手の価値} = \text{〈生きる価値〉} + \text{地の大きさの価値}$$

となりますが、ここで重要なことは第一番目の「生きる価値」が主であって、その付加価値として「地の大きさの価値」があることになるのです。つまり〈生きる価値〉の方が「地の価値」よりはるかに大きいことを意味しています。

◆ 「囲碁のゲーム理論」は、 2級程度の棋力で理解できる

囲碁のゲーム理論は、全局的な石の流れをイメージさえできれば、棋力としては2級程度で十分理解できます。理論を学ぶ長所には、あらゆる場面で活用できることがあり、手筋や詰碁のような「数多くの問題を解かなければならない」という練習の負担がありません。

◆ 構想チェックを自分で行なえる。

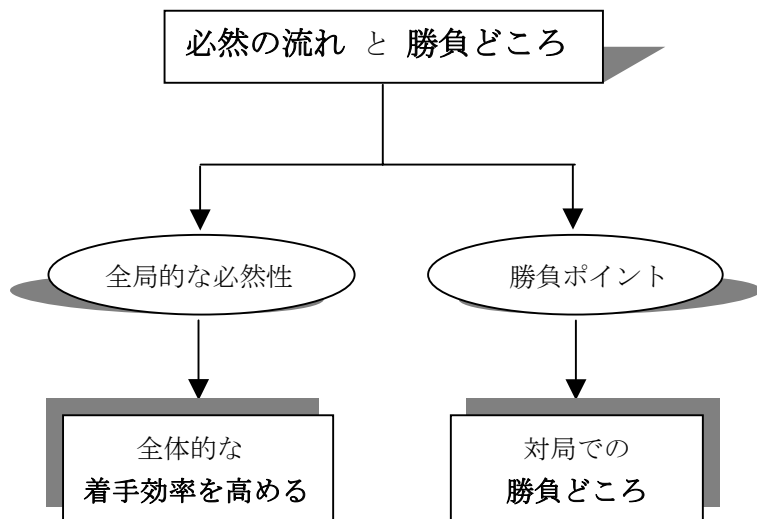
「必然性の理論」を学ぶことは、上達のための学習方法として数多くのメリットを与えてくれます。「**構想通り進行できたか**」、「**自分の構想で勝敗に勝てたか**」の2つの検証によって、自分の思考過程や価値基準が明確になり、「棋力に関係なく、誰でも自分にあった正しい上達方法」を自分で見つけることが可能になります。また難解な場面における判断力や思考スピードを高めてくれるという長所が生まれます。

◆ 付録にある法則の一覧

この本では、研究資料として法則一覧を、付録として公開しています。ゲーム理論として考えられる思考条件、判断基準、チェック条件などを、「法則」という言葉で表現しています。これらの法則は、学術的に承認されてはいませんが、理論を考えるための基礎資料や概念を理解する手助けになると考えます。難解な場面に出合った時、この資料によって自分なりの手を見つけるきっかけになれば幸いです。

この本を通じて、皆様の棋力向上と囲碁理論の理解へのお役に立てれば幸いです。

◇ 囲碁理論 2大ポイント



囲碁理論の2大ポイントは、「全局的な必然性」と「勝負ポイント」です。これらを通じて「着手効率」と「勝負どころ」とがわかります。

【2】 さあ、スタートですが...その前に

さあいよいよ、ここからがスタートになりますが、体系的な囲碁理論を理解して頂くためには、言葉の意味とその全体イメージが重要になります。つまり、**重要な言葉とその関連性がポイント**になると思います。そのため、キーワードになる単語を意識しながら読み進めて下さい。理解しにくい部分があっても、とりあえず「**最後まで一度、目を通してみる**」という気分でスタートして下さい。

◆ 全体のイメージを見てみる。

この本では、理論体系を理解して頂くために、**重要な単語**が繰り返し登場しています。それらの単語は、初めて見る新しい言葉や概念であるため、多少気持ちに違和感が生まれるかもしれませんが、そのような時は「タイトル」だけを記憶の片隅にとどめていただければ結構です。

また、理解をし易くするために、**左ページと同じ文章内容を、右ページに関連図**として要約したものを記述しています。

◇ 効率よく理解していただく読み方...

いろいろな角度から見ながら、理論全体が
自然に理解できる仕組みになっている。

単語は、重要です

単語の関連性に注目

イメージ図を眺める

1度は...最後まで...

読み飛ばしで進行する